



技術で社会に貢献する企業集団、私たちは川田グループです

川田テクノロジーズ株式会社(3443)

2026年3月期 中間期

決算説明会

2025年11月25日 10:30～

皆さま、こんにちは。川田テクノロジーズ株式会社代表取締役社長の川田でございます。本日はご多忙の中、弊社2026年3月期の中間期の決算説明会へご参加いただきまして誠にありがとうございます。それでは早速ご説明を始めさせていただきます。前方のスクリーンか、お手元の資料をご覧ください。ウェビナーで参加いただいている方におかれましては、画面をご覧くださいるか、当社のIRサイトに資料データを掲載しておりますので、そちらをご覧くださいいただけますようお願いいたします。

◎第一部

- [1. 2026年3月期中間期の業績](#)
- [2. 2026年3月期末の業績見通し](#)
- [3. 第3次中期経営計画の数値目標見直しと進捗](#)
- [4. 株主還元の見通し](#)

◎第二部

- [「建設×ロボットで現場を変える」](#)

本日はまず決算等に関しまして、

- ・ 2026年3月期中間決算の業績
- ・ 2026年期末の業績の見通し
- ・ 第3次中期経営計画の数値目標見直しと進捗及び株主還元の見通し

これら3点のご説明を差し上げました後に、「建設×ロボットで現場を変える」と題しまして、当社の強みでありますロボティクス技術の建設業への活用の状況を、実例を交えてご紹介させていただきます。業績の全体像を私より、その後事業セグメントごとの業績、期末業績の見込みなどを常務の渡邊より、そして「建設×ロボットで現場を変える」という話を技術開発本部長の枝元より、それぞれご説明させていただきます。

1. 2026年3月期中間期の業績

それではまず2026年3月期の業績についてご説明申し上げます。

2026年3月期中間期 収益状況

4 / 26

鉄構、土木セグメントで工事進捗伸びず、売上高減。期中に大型設計変更を獲得した前期比で利益も減少

(単位：百万円)

	2024年3月期 中間		2025年3月期 中間		2026年3月期 中間		増減(25-26)	
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	金額	比率
売上高	64,325	100.0%	66,430	100.0%	55,346	100.0%	-11,084	-16.7%
売上総利益	8,507	13.2%	10,581	15.9%	9,328	16.9%	-1,253	-11.8%
営業利益	3,096	4.8%	4,801	7.2%	3,172	5.7%	-1,629	-33.9%
経常利益	3,695	5.7%	6,443	9.7%	3,958	7.2%	-2,484	-38.6%
親会社株主に帰属 する中間純利益	2,594	4.0%	5,017	7.6%	3,142	5.7%	-1,874	-37.4%
1株当たり 中間純利益 (円)	147.82	-	290.82	-	180.53	-	-110.29	-37.9%

収益の状況はご覧のとおりです。当期は売上・利益ともに前期を下回る決算となりました。これは鉄構セグメントと土木セグメントにおきまして、工程初期にあり本格稼働に至らない工事や、期初時点の想定に比べて工程が遅延している工事があるなどしたため、全体として手持ち工事の進捗は伸び悩んだということによるものであります。特に利益については、これは悪い水準にはないのですが、前期は前半に大型の設計変更を獲得したということもあって、それと比較しまして今期は大きく減少しております。数値といたしましては、

- ・売上高は前期比17%減の553億円
- ・売上総利益が12%減の93億円
- ・営業利益は34%減の31億円
- ・経常利益は39%減の39億円
- ・親会社株主に帰属する中間純利益は37%減の31億円、
- ・一株あたり中間純利益は38%減の180.53円

という結果になりました。

また11月11日に開示いたしましたが、今後、期の後半において手持ち工事の進捗状況が大幅に改善するとはは考えづらいため、当期末の売上の見込み及び第3次中期経営計画における売上高の数値目標を、それぞれ下方修正しております。この点は後ほど改めてご説明させていただきます。

2026年3月期中間期 受注状況

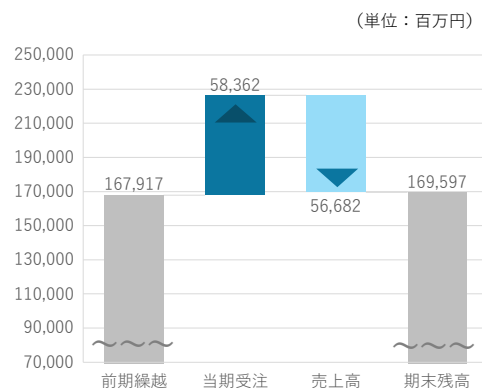
5 / 26

鉄構セグメントにおける鋼製橋梁の大型更新工事、建築鉄骨の首都圏大型物件などを積み上げ、前期比大幅増。手持ち工事の進捗は伸びを欠いたこともあり期末受注残高は1,700億円を臨む過去最高水準に達する。
豊富な受注残をいかにこなすかが今後のポイント

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25-26)
前期繰越 ※前期末	154,364	154,730	167,917	+13,186 +8.5%
当期受注	53,215	47,710	58,362	+10,651 +22.3%
売上高	65,038	67,369	56,682	-10,687 -15.9%
期末残高	142,541	135,071	169,597	34,525 +25.6%

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません



続きまして、受注の状況はご覧のとおりとなります。建設コストの高騰や働き手不足などを背景に厳しい事業環境が続いておりますが、鉄構セグメントにおける鋼製橋梁の大型更新工事や建築鉄骨の首都圏大型物件などが牽引したことで、前年同期を上回る受注となりました。既に受注残は非常に多く抱えて始まった今期であります。このようにさらに多くの新規受注を獲得できた一方で、今期の売上高が減少したため、期末の受注残高は1,695億円と過去最高水準に達しております。この豊富な受注残をいかにこなしていくかが今後のポイントになると考えております。他方で、製作工場の稼働を伴う物件が不足気味ですので、物件を選別しながら積極的な受注に向けて取り組んでまいります。

2026年3月期中間期 BS指標・キャッシュフロー状況

6 / 26

営業債権の回収進み運転資本の借入返済、総資産減少。自己資本比率は引き続き改善。
工程初期にある物件や「原価先行」状態が続きがちな更新・保全工事の増加で工事損失引当金はやや増加傾向

【総資産・純資産・自己資本比率】

(単位：百万円)

	202403 期末	202503 期末	202603 中間	増減 (25末-26中)
総資産	160,238	165,511	162,503	-3,008 -1.8%
純資産	82,363	91,569	93,055	+1,486 +1.6%
自己資本比率	51.1%	55.0%	57.0%	+2.0pts

【キャッシュフロー】

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25中-26中)
営業	7,118	-5,038	4,061	+9,100
投資	-859	-1,197	-39	+1,158
財務	-8,215	4,781	489	-4,291

【工事損失引当金】

(単位：百万円)

	202403 期末	202503 期末	202603 中間	増減 (25末-26中)
BS計上値	1,674	2,908	3,661	+752 +25.9%
うち、鉄構セグ	1,212	1,839	2,055	+216 +11.7%
うち、土木セグ	461	1,068	1,598	+529 +49.6%

続きまして、主なB/S指標とキャッシュフローの状況です。営業債権の回収が進み運転資金の短期借入れを返済したため総資産は若干減少しましたが、純資産は増加し、自己資本比率も向上しております。計画が止まってしまっている工事が一部あるほか、工程初期にある物件や更新・保全といった原価先行の状態が続きがちな工事が増加しているということもあり、工事損失引当金は増加傾向にあります。また、営業債権の回収が営業キャッシュフローを改善させております。ではここからは、常務の渡邊よりセグメント別の決算状況を説明させていただきます。

セグメント別概況 4つの事業セグメント

7 / 26

鉄構セグメント

土木セグメント

建築セグメント

ソリューションセグメント



常務の渡邊でございます。よろしくお願いします。弊社グループは4つのセグメントで事業を行っております。

- ・鋼製橋梁の製作施工及び超高層ビル等の建築鉄骨の設計・製作・施工を行う「鉄構セグメント」、
- ・コンクリートの橋の設計施工並びに補修保全を中心に事業を行う「土木セグメント」
- ・低層の工場や倉庫などに多く使用されるシステム建築を中心に建築事業を行う「建築セグメント」、
- ・自社開発3次元CADなどの土木向けソフトウェア等と、ヒューマノイドロボット等の開発販売を行う「ソリューションセグメント」でございます。

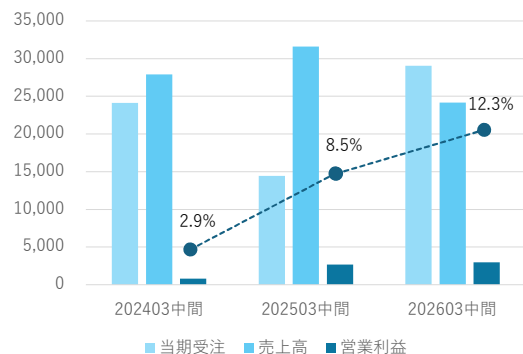
これらに区分してご報告いたします。

鋼製橋梁：発注状況は低調も、大型更新工事のJV受注で前期比大幅増。物件の大型化傾向のなか長工期の物件多い。手持ち工事の進捗伸びず売上高減も、設計変更複数獲得し利益・利益率ともに前期比増

建築鉄骨：受注環境厳しいが、首都圏・大阪IR関連等の大型物件受注で前期比大幅増
工事進捗伸びず売上高減。設計変更獲得で利益に貢献も、売上減の影響大きく利益は減少

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25-26)
当期受注	24,142	14,443	29,070	+14,627 +101.3%
期末受注残	81,231	70,408	100,285	+29,877 +42.4%
売上高	27,901	31,597	24,158	-7,439 -23.5%
営業利益	798	2,695	2,975	+280 +10.4%
営業利益率	2.9%	8.5%	12.3%	+3.8pts



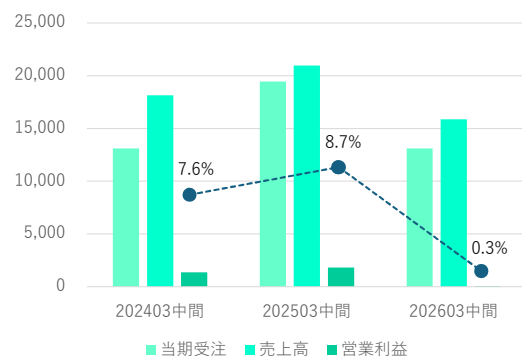
※セグメント間の取引は相殺消去していません

まず鉄構セグメントでございます。鋼製橋梁につきましては、前年度発注が13万トンと低調でああったなか、当初、当期は10万トンに減るというように考えておりましたが、10万トンに満たないというのが現在の状況でございます。熾烈な受注競争のなか、高速道路の大型更新工事を受注しております。これは、通常はプレキャストのPC床版が多いので土木セグメントの方で受注いたしますが、この更新工事におきましては鋼床版の取り替えもございましたので、この鉄構セグメントで受注しております。前年度前半の受注が少なかったということもありますが、これもあって、前期を上回ることができてございます。他方、川田が申し上げました通り、工程におきましてはまだ本格稼働に至らない工事ですとか、遅延している工事等があるうえ、物件が大型化して長期に亘るようになっていることもございまして、当初より当年度の出来高は少ないと想定しておりましたが、我々が想定していた以上に出来高が上がりなかったといったことが、売上高の減少の要因となってございます。建築鉄骨につきましては、予定されている物件に若干の遅れはあるものの、東京の再開発や大阪のIR関連等など受注もできましたので、こちらも前年度期を上回ることができてございます。利益につきましては、設計変更が橋梁・鉄骨ともある程度見えたというところで、前期比2億8千万増の29億になってございます。

厳しい発注環境のなか受注を積み上げるも、大型物件が集中した前期比では減少。特に新設・保全物件で受注間もない物件が本格稼働に至らないことなどで売上高も減少。ほか、現場エンジニアリングが重要な更新・保全物件で「原価先行」状態のものが複数あることで営業利益も前期比大幅減

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25-26)
当期受注	13,120	19,454	13,110	-6,343 -32.6%
期末受注残	44,069	43,686	47,947	+4,260 +9.8%
売上高	18,151	20,952	15,863	-5,088 -24.3%
営業利益	1,372	1,828	48	-1,779 -97.3%
営業利益率	7.6%	8.7%	0.3%	-8.4pts



※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

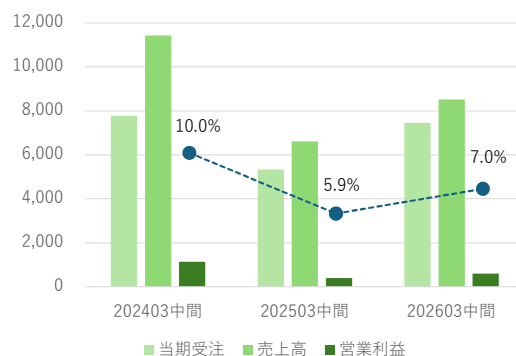
続きまして、土木セグメントでございます。今回収益が落ちているところの要因はこちらとなります。市場環境から申し上げます。コンクリートの橋とPC床版取替を併せて、4,100億円から3,400億円というふうに落ちてきた市場でございますが、今年度は3,000億に届くかどうかという様子で、市場環境は厳しい状態にございます。また、当年度中に発注予定の案件につきましても、現在行われている工事の延長上の「随意契約」というのがかなり含まれておりまして、実質的に競争できるものはかなり少ないというのが、この市場の現状の特色でございます。そういった中で、床版工事等の受注は取れたのですが、補修工事につきましては、昨年度第4クォーターに60億ほどの大型案件も受注しましたので、当期の発注も少なかったこともあって、補修のところが少ないといった結果、前期の水準には届かない状況になりました。売上高につきましては、特にこの土木セグメントにおきましては、現在、原価が先行するといったステージにございます。現段階では工事が設計もだいたい固まってきて、原価がかなり見える状況であるけれども、工事が進捗していない中で、いわゆる受注計上、設計変更の見込みが計上できない状況にあります。これを我々は「原価先行」と呼んでおりますが、このことが先ほど川田が説明しておりました工事損失引当金の増加という形に表れており、工事損失引当金の増加が要因となって営業利益が大きく減っているというところでございます。私どもとしては、この「原価先行」が非常に大きく影響しているだけで、採算性自体が大きく狂っているとは思っておりません。今期の決算におきましても、先ほど申し上げました通り、当期収益は前期を下回っておりますがその大きな要因はこの土木にあり、さらにその要因は、私どもは「原価

先行」にあると考えている次第です。

既に設計作業を請け負っていた大型システム建築物件について、施工部分も受注したことなどで受注前期比増。鉄構・土木セグメントと異なり、大型物件を中心に手持ち工事が順調に進捗し売上高前期比増。採算性の高い工事の進捗や竣工間近の物件でコストが引き締まったことなどが営業利益に貢献

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25-26)
当期受注	7,777	5,332	7,451	+2,118 +39.7%
期末受注残	12,877	16,584	16,713	+128 +0.8%
売上高	11,427	6,610	8,525	+1,915 +29.0%
営業利益	1,137	393	598	+205 +52.2%
営業利益率	10.0%	5.9%	7.0%	+1.1pts



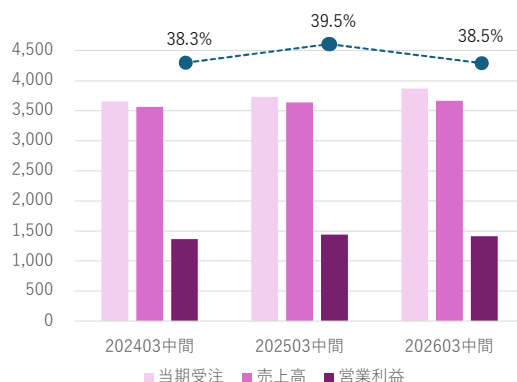
※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

続きまして、建築セグメントでございます。こちらは、昨今は設計作業と施工作業を分けて受注するケースが増えてまいりました。設計作業を受注したのち、その作業中に当初の設計の考え方が大きく変わってしまうことで作業完了までの期間が長期化することが少なくなく、後工程である施工部分の受注までに時間を要していることが背景にあります。当期は、すでに設計を請け負っていたものについて施工契約も結んだことなどで、受注は前期を上回っております。売上高につきましては、大型物件、特に持分法適用会社の佐藤工業と一緒にやっております大型の物流倉庫をはじめ、手持ち工事が順調に進捗したとことで、売上高は前期比増という形になってございます。また、第一クォーターで大きな案件が完了し、その過程で原価圧縮ができたといったこともあり、利益は前期を上回ってございます。

ソフトウェア：自社製品3D-CAD「V-nas Clair」に加えクラウドサービスも好調。積極的な広告宣伝で利益減
ロボット：直接販売が伸び受注台数は前期比増加。売上高は減少も利益は微減に留まる

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25-26)
当期受注	3,659	3,733	3,872	+139 +3.7%
期末受注残	3,448	3,588	3,809	+220 +6.1%
売上高	3,567	3,643	3,666	+23 +0.6%
営業利益	1,367	1,440	1,411	-29 -2.1%
営業利益率	38.3%	39.5%	38.5%	-1.0pts



※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

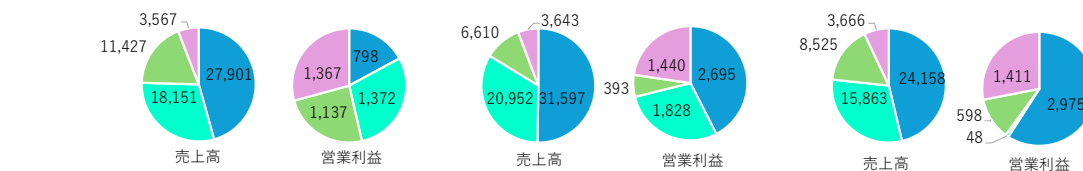
ソリューションセグメントでございますが、こちらは基本的には計画から大きく狂っておりません。後ほど期末見込みのところで申し上げますが、この3次元CAD、V-nas Clairに加えクラウドサービスも好調ではありますが、一時期見せていた急成長は少し鈍化しているかなと思っております。後ほどまた新たな試みについてご説明申し上げますけれども、伸びてはいるものの成長は少し鈍化したということです。そこは踊り場であって、これからさらに成長を期待しております。また、営業利益が若干減少しておりますのは、この会社におきましてはやはり人材が重要ですので、テレビコマーシャル等もして人材の確保、さらには新市場への知名度向上といったことも考えておりまして、そういったもので販管費で増加したことが要因でございます。

2026年3月期中間期 セグメント別 収益の推移

12 / 26

(単位：百万円)

	2024年3月期 中間			2025年3月期 中間			2026年3月期 中間		
	売上高	営業利益	営利率	売上高	営業利益	営利率	売上高	営業利益	営利率
鉄構	27,901	798	2.9%	31,597 +13.2%	2,695 +237.6%	8.5% +5.6pts	24,158 -23.5%	2,975 +10.4%	12.3% +3.8pts
土木	18,151	1,372	7.6%	20,952 +15.4%	1,828 +33.2%	8.7% +1.1pts	15,863 -24.3%	48 -97.3%	0.3% -8.4pts
建築	11,427	1,137	10.0%	6,610 -42.2%	393 -65.4%	5.9% -4.1pts	8,525 +29.0%	598 +52.2%	7.0% +1.1pts
ソリューション	3,567	1,367	38.3%	3,643 +2.1%	1,440 +5.4%	39.5% +1.2pts	3,666 +0.6%	1,411 -2.1%	38.5% -1.0pts



※ 鉄構 土木 建築 ソリューション を示します

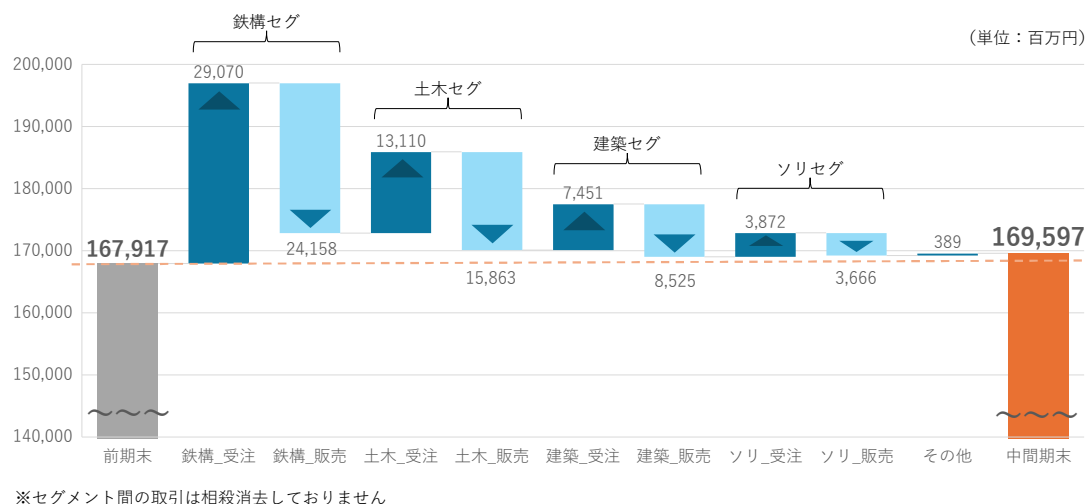
※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

ご参考までに、セグメント別の収益の推移を掲載しておりますが、こちらにつきましては、設計変更の計上のタイミングなどによって収益は大きく変動いたしますので、あくまでもご参考という形でご覧いただければと思います。

2026年3月期中間期 セグメント別 受注状況

13 / 26

期末受注残は過去最高水準。このほか、決算数値には表れないが後工程の製作・施工契約にかかる「優先交渉権」付きの設計作業などを複数抱え、実質的にはこれ以上に高い水準にある。これをいかに安定的にこなすかがポイント。担い手不足や物件の大型化傾向による長工期の物件などもあり、売上計上ペースは鈍化の懸念も



先ほど川田も申し上げておりましたが、受注残が過去最高水準にあります。これは、昨年度末1,670億円の受注残があって、鉄構セグメントでは290億円の受注、そして完工が240億円でした。土木においては逆に受注が少なかったことで、27億円ほど受注残が減っておりますけれども、建築・ソリューションはそれほど大きく変わりませんでした。鉄構セグメントがこの中間期で50億円ほど受注残が増えたこととなりますが、受注残全体では、土木も減ったことで1,690億円となっております。

2. 2026年3月期末の業績見通し

続きまして、26年3月末の業績見通しでございます。

2026年3月期末 業績見込み

15 / 26

鉄構・土木・建築セグメントにおける手持ち物件の進捗が当初想定を下回る見通しで、売上高見込み引き下げ。竣工予定の複数物件で当初想定を上回る設計変更の獲得が見込まれ、各段階利益は据え置き

(単位：百万円)

	2025年3月期 期末	2026年3月期 中間	2026年3月期 (当初見込) ※1	2026年3月期 (修正見込) ※2	増減	
					25期末 - 26修正見込	当初見込 - 修正見込
売上高	132,905	55,346	125,000	115,000	-17,905 -13.5%	-10,000 -8.0%
営業利益	9,684	3,172	7,800	7,800	-1,884 -19.5%	-
経常利益	12,616	3,958	9,600	9,600	-3,016 -23.9%	-
親会社株主に帰属する 当期(中間)純利益	11,107	3,142	7,500	7,500	-3,607 -32.5%	-
1株当たり 当期(中間)純利益 (円)	642.96	180.53	431.42	430.05	-212.91 -33.1%	-

※1 2025/5/13発表値によります

※2 2025/11/11発表値によります

先ほど川田がご説明申し上げましたとおり、この鉄構及び土木セグメントで進捗が当初想定よりも遅れているということもあり、これを後半部分でカバーするのはなかなか難しいということで、売上高を1,250億円から1,150億円に修正させていただきました。ただ現段階では、営業利益、経常利益、その他の利益につきましては、まだこれは頑張れる目標であるというように考えておりますので、こちらにつきましては、現段階では修正をいたしておりません。

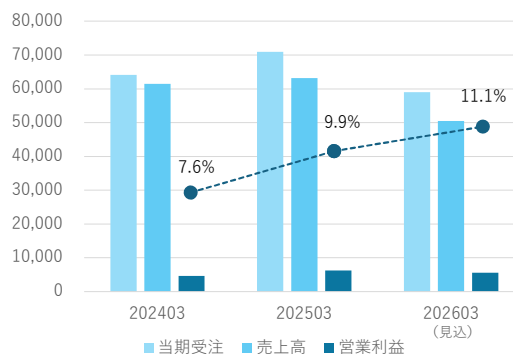
売上高目標引き下げだが、営業利益目標は引き上げ

鋼製橋梁：新設市場は長期的な減少傾向も、更新・保全市場は今後も継続的に存在。足元の市場は金額ベースで増加傾向。ビッグプロジェクトも数年後から本格化で底堅い事業環境を想定も、当期は厳しい環境

建築鉄骨：建設コスト高騰、担い手不足、働き方改革など複合的な要因で計画の後ろ倒し散見されるが、引き続き首都圏・大阪IR関連など大型プロジェクト多数計画され、総じて堅調な需要を期待

(単位：百万円)

	202403	202503	202603 当初見込	202603 修正見込	増減 (25-26見込)
当期受注	64,091	70,983	59,000	59,000	-11,983 -16.9%
期末受注残	87,561	95,372	98,372	103,872	+8,500 +8.9%
売上高	61,519	63,172	56,000	50,500	-12,672 -20.1%
営業利益	4,648	6,274	5,250	5,600	-674 -10.7%
営業利益率	7.6%	9.9%	9.4%	11.1%	+1.2pts



※セグメント間の取引は相殺消去していません

鉄構セグメントにおきましては、当期受注、こちらも先ほど申し上げたような市場環境の中で受注を積み上げていくというのは、なかなか難しいところではありますけれども、すでにある物件の設計変更その他も含めて、何とか目標を達成していきたいというように考えております。ですので、当期受注は当初目標の590億から変えておりません。完工高の方は、こちらは先ほどの理由で、55億ほど減少させました。ただ、営業利益につきましては、鉄構セグメントの中の橋梁も鉄骨もでございますけれども、設計変更が当初想定よりもある程度高い水準が見えてきたため、56億円へ修正させていただいております。

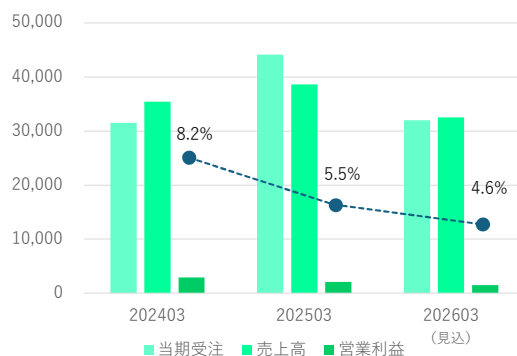
2026年3月期末見込 ②土木セグメント

17 / 26

PC橋梁市場も、鋼製橋梁と同様に長期的には緩やかな減少傾向。高速道路会社の大規模床版取替工事の発注も、建設コスト高騰による一時的な予算枯渇や人手不足などを背景に短期的には端境期。受注競争大変厳しいが受注見込みは据え置き。手持ち工事の進捗は伸びない見通しで、売上高・営業利益見込ともに引き下げ

(単位：百万円)

	202403	202503	202603 当初見込	202603 修正見込	増減 (25-26見込)
当期受注	31,516	44,137	32,000	32,000	-12,137 -27.5%
期末受注残	45,184	50,700	47,700	50,200	-500 -1.0%
売上高	35,432	38,622	35,000	32,500	-6,122 -15.9%
営業利益	2,891	2,106	1,900	1,500	-606 -28.8%
営業利益率	8.2%	5.5%	5.4%	4.6%	-0.9pts



※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

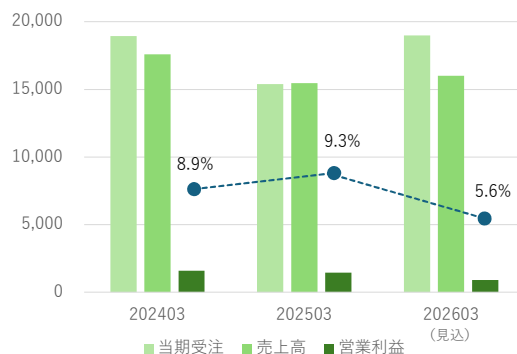
続きまして土木セグメントでございます。土木セグメントにおきましては、受注のところは現段階ではまだ下げておりませんが、売上高は進捗が少し遅いといったことで、25億円ほど下げました。営業利益は、この中間段階までの設計変更の上がり方等を鑑みて、15億円へ若干下方修正しております。全体として、土木が「原価先行」であるところを、鉄構がカバーしている、といったような絵になってございます。

大都市圏近郊の多層階倉庫の需要は一巡し地方都市の低層物件へシフト。国内への製造拠点の回帰の動きで新たな需要喚起を期待。仕様変更などで当初想定以上に設計に時間を要し、施工部分の契約期ズレの懸念等あり。期首に見込んでいた足の速い物件の受注少なく当期売上見通しを引き下げ。佐藤工業とのJVで取り組む大型多層階倉庫が竣工に向かうが、一層の採算性改善に努める

(単位：百万円)

	202403	202503	202603 当初見込	202603 修正見込	増減 (25-26見込)
当期受注	18,936	15,398	19,000	19,000	+3,602 +23.4%
期末受注残	17,862	17,788	18,788	20,788	+3,000 +16.9%
売上高	17,601	15,473	18,000	16,000	+527 +3.4%
営業利益	1,574	1,444	850	900	-544 -37.7%
営業利益率	8.9%	9.3%	4.7%	5.6%	-3.7pts

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません



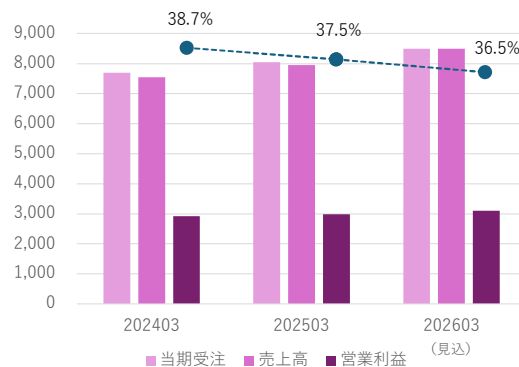
建築セグメントでございます。こちら受注につきましては、まだ設計段階にあるものについて、今後施工部分が受注できるかといった課題はございますが、現段階では当初見込みの190億をそのままいたしております。売上高は、当期前半における受注が少なかったといったところも要因でございますけれども、少し減少させた160億と見ております。営業利益は足元堅調ということで若干の増加で9億円とみております。

ソフトウェア：自社製品3D-CADとクラウドサービスの好調継続見込む。ソフトウェア会社から「情報サービスコンサルタント」へ飛躍目指す。地下埋設の水道・電力・通信管などの見える化で公共インフラ分野への貢献目指す

ロボット：AIの加速度的な発展・普及や人手不足を背景に、ロボットの実世界への適用も一層進む。引き続き黒字化に向け努力

(単位：百万円)

	202403	202503	202603 当初見込	202603 修正見込	増減 (25-26見込)
当期受注	7,692	8,053	8,500	8,500	+447 +5.6%
期末受注残	3,498	3,603	3,603	3,603	-
売上高	7,550	7,949	8,500	8,500	+551 +6.9%
営業利益	2,919	2,982	3,100	3,100	+118 +4.0%
営業利益率	38.7%	37.5%	36.5%	36.5%	-1.0pts



※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

ソリューションセグメントでございます。こちらにつきましては、売上高、営業利益ともに当初の見込みを変えておりません。申し上げました通り、ソフトウェアは少し伸びが鈍化したといったところがございますけれども、国土交通省がBIM/CIM化の推進の一環で3次元モデルと2次元の図面の融合ということを、この3年間で実行すると考えておられます。私どもの得意とするこの3次元CADは2次元もございますので、我々の利点を生かしてさらなる事業の拡大を目指していきたいと考えてございます。

3. 第3次中期経営計画の数値目標見直しと進捗

第3次中期計画の数値目標見直しと進捗でございますが、

第3次中期経営計画(2024年4月～2026年3月)の概要

21 / 26

位置付け	KAWADA VISIONの実現に向けて、川田グループの持続的な成長と持続可能な社会の実現の両立を目指していく。事業環境が大きく変化する中、真摯に <u>経営課題</u> と向き合い、迅速かつ柔軟に解決することで、 <u>レジリエント企業を目指す</u>		
経営課題	資本コストを意識し、 <u>①ROE向上</u> を目指した経営を推進するとともに、それを支える <u>②経営基盤の強化</u> を図る	①ROE向上	基幹事業における収益力強化、成長事業における事業規模拡大、資本効率を重視した経営にシフト
		②経営基盤強化	人材確保・人材育成とDXによる生産性向上、IPランドスケープの推進、持続可能な社会の実現に向けたサステナブル経営の推進
<テーマ>『KAWADA VISION』の実現を目指し、 <u>レジリエント企業に変貌する</u>			
基本方針	基幹事業の持続的成長	100年かけて培ってきた技術を軸に、ビッグプロジェクトに参画するとともに、拡大している橋梁の保全・補修市場への対応強化	
	成長事業の拡大・創出	成長が見込まれる事業分野に経営資源を投入するとともに、「川田ならではの」価値創造により新規事業を創出	
	サステナビリティ経営の推進	グループ理念である「安心して快適な生活環境の創造」のもと社会課題の解決を起点とした責任ある企業経営を貫き中長期的な企業価値の向上	
	資本効率経営への転換	ROE経営を推し進めるとともに、「八方よし」の精神での企業経営を継続	

概要については既に申し上げているところですので、後ほどご覧いただければと思います。

数値目標の一部見直し（売上高のみ下方修正）

22 / 26

	第1次中計 (実績)	第2次中計 (実績)	第3次中計 (当初)	第3次中計 (2025/5/13修正)	第3次中計 (2025/11/11修正)
売上高 (3か年累計)	3,526億円	3,373億円	3,910億円以上	3,910億円以上	3,770億円以上 (-3.6%)
営業利益 (3か年累計)	172億円	170億円	186億円以上	261億円以上	261億円以上
当期純利益① (3か年累計)	165億円	157億円	156億円以上	261億円以上	261億円以上
当期純利益② (3か年累計、持分法 投資損益除く)	109億円	109億円	121億円以上	196億円以上	196億円以上
ROE① (最終年度)	11.3%	5.8%	8.0%以上	8.0%以上	8.0%以上
ROE② (最終年度、関係会社 株式見合い除く)	15.8%	7.3%	11.0%以上	11.0%以上	11.0%以上
株主還元 (3か年平均)	8.5%	16.0%	30.0%目途	30.0%目途	30.0%目途

こちらで変えたのは、先ほど来申し上げておりますように売上高です。こちらの当期見込みを100億ほど減らしておりますので、中計期間の合計を3,770億円以上へと変更させていただいております。営業利益や当期純利益等は、現段階では見込みを変えておらず、期初の発表通りでございます。

各年度における数値目標の進捗状況

23 / 26

売上高目標引き下げ（3年累計で3,910億円から3,770億円へ）も、他目標は据え置き

（単位：億円）

	当初目標 (2024/5)	修正後 目標 (2025/11)	3か年状況								
			2024年3月期 (1年目)		2025年3月期 (2年目)			2026年3月期 (最終年度・見込)			
			実績	進捗率	実績	累計	進捗率	単年見込	3年累計	達成率	当初計画比
売上高 (3か年累計)	3,910	3,770	1,291	33.0%	1,329	2,620	67.0%	1,150	3,770	100.0%	96.4%
営業利益 (3か年累計)	186	261	87	33.5%	96	184	70.6%	78	262	100.4%	141.0%
当期純利益① (3か年累計)	156	261	75	28.9%	111	186	71.5%	75	261	100.2%	167.6%
当期純利益② (3か年累計、持分法投資損益 除く)	121	196	58	29.7%	80	138	70.8%	58	196	100.4%	162.6%
ROE① (最終年度)	8.0%	8.0%	9.6%	-	12.8%	-	-	8.0%	-	達成見通し	
ROE② (最終年度、関係会社株式見 合い除く)	11.0%	11.0%	13.8%	-	17.0%	-	-	11.1%	-	達成見通し	
配当性向 (3か年平均)	30.0%目標	30.0%目標	30.2%	-	29.6%※	-	-	30.2%	30.0%	達成見通し	

※配当方針に基づき「非経常的な特殊要因に基づく損益」を配当原資から除いて計算しております
これを除かない場合の配当性向は「22.6%」となります

こちらをご参考ではありますが、当期が3か年の最終年度にあたりまして、これまでの進捗状況をこの中間期の実績と見込みを入れてお示しさせていただいております。こちらも後ほどご覧いただければと思います。

4. 株主還元の見通し

株主還元の見通しでございます。

株主還元の見通し

25 / 26

当期配当 年間130円／株 を引き続き見込む。中間配当65円、期末配当も65円の見込み

配当方針（2024年11月12日より）

- ・企業価値向上とともに株主の皆様への利益還元を最重要施策の一つとして認識
- ・親会社株主に帰属する当期純利益から非経常的な特殊要因による損益（※）を除外し、連結配当性向30%程度を目途に安定的な配当を継続して実施することを基本方針
- ・第3次中計の残り期間（2025年度）に係る1株当たり配当金の下限を年間90円

Q.「非経常的な特殊要因による損益」とは？

- A. 通常の事業活動から生じたものではない、特に将来に亘りキャッシュフローを期待できない会計上の損益
- ※必ずしも、P/L「特別区分」に計上された損益を意味しません

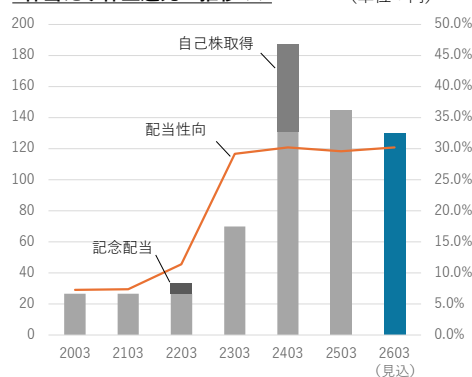
	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (当期・見込)
1株当たり 当期純利益 ※1	434.06円	642.96円	430.05円
1株当たり配当額 ※2	131円	145円 (中間45円)	130円 (中間65円)
配当性向	30.2%	29.6% ※2	30.2%
自己株式取得	999百万円	-	未定
総還元性向	43.2%	29.6% ※2	30.2%

※1 2024年4月1日株式分割を表示期間期首に実施したものと計算しています

※2 配当方針に基づき「佐藤工業による持分法新規適用に伴う時価評価差額」および「繰延税金資産の回収可能性の見直しに伴う法人税等調整額」を除いて計算しています
これらを除かない場合、配当性向は「22.6%」となります

1株当たり株主還元の推移 ※1

(単位：円)



こちらにつきましても当期利益の見込みを当初から変えておりませんので、配当につきましても配当性向30%程度を目処に、安定的な配当と目指しております。1株当たり当期純利益430円の見込みに対して、1株当たり配当額130円、中間で65円という配当を、現段階では考えております。

「統合報告書2025」を発刊しました。是非ご覧下さい！

26 / 26



併せて一つご報告をさせていただければと思います。昨年に引き続き、今年も当社グループの統合報告書を作成いたしました。今般は前年の内容に加え、皆様のご関心の高いソリューションセグメントの収益を牽引する川田テクノシステムの特集や、社外取締役の鼎談など、新たな内容を盛り込んでおります。弊社ウェブサイトなどからダウンロードいただけますのでぜひご覧いただければと思います。

決算に関するご説明は以上です ご清聴ありがとうございました

ここまでお聞きいただきありがとうございました。決算に関するお話はここまでとなります。引き続き第三次中期経営計画に定める各目標の達成に尽力してまいりますとともに、企業価値の増大と株主の皆様への還元に努めてまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【参考】 主な業績指標の推移（期末）

（単位：百万円）

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 中間
売上高	103,760	118,086	129,127	132,905	55,346
営業利益	6,412	5,025	8,734	9,684	3,172
経常利益	7,689	6,298	10,538	12,616	3,958
親会社株主に帰属する当期(中間)純利益	5,176	4,231	7,541	11,107	3,142
1株当たり当期(中間)純利益(円) ※	292.54	239.94	434.06	642.96	180.53
自己資本当期純利益率(%)	7.6	5.8	9.6	12.8	3.42%
総資産経常利益率(%)	5.5	4.3	6.5	7.7	2.41%
売上高営業利益率(%)	6.2	4.3	6.8	7.3	5.73%
総資産	133,337	162,158	160,238	165,511	162,503
純資産	71,921	76,697	82,363	91,569	93,055
自己資本比率(%)	53.2	46.6	51.1	55.0	57.0%
1株当たり純資産(円) ※	4,009.61	4,288.11	4,754.54	5,238.20	5,307.07
営業活動によるキャッシュフロー	20,391	-9,673	13,320	9,839	4,061
投資活動によるキャッシュフロー	-1,948	-1,504	-2,553	-2,981	-39
財務活動によるキャッシュフロー	-15,811	12,213	-10,337	-8,659	489
1株あたり年間配当金(円) ※	33.33円 (うち記念配当6.67円)	70円	131円	145円 (うち、中間期45円)	130円予定 (うち、中間期65円)

※ 2024年4月1日株式分割を表示期間期首に実施したものと計算しています

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性について保証するものではありません。また、本資料に記載される当社グループの計画、見積、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断または考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、経済情勢、業界の市場動向、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

<お問合せ先>
川田テクノロジーズ株式会社 経営管理部
ir.kti@kawada.jp

 KAWADA technologies